

(4) ②様式第3号-2 (報告書)

NITS・教職大学院等 コラボ研修プログラム 支援事業報告書	実施機関名・連携機関名 実施機関名：上越教育大学 連携機関名：上越市教育委員会（上越市立教育センター）、 上越市立浦川原小学校
	事業名： 通級による指導との連携による教科等の授業づくり
	研修等名：【NITS・上越教育大学教職大学院コラボ研修】 通級による指導との連携による教科等の授業づくり
	開催期間：令和5年5月10日（水）～令和6年2月13日（火） 開催場所：上越市立浦川原小学校（新潟県上越市浦川原区横川321） 参加人数：研究発表会参加者総数31人（内訳：上越市立浦川原小学校教員2人、上越市内小中学校 教員21人、大学院生7人、上越市教育委員会指導主事1人）

内容：

令和4年度「通級による指導との関連による教科等におけるインクルーシブな授業づくり」では、上越市立浦川原小学校において、通級担当教師と学級担任が協働で自立活動の個別の指導計画を作成し、通級による指導と各教科等の授業との関連を図った国語科の授業づくりを実践した。研修会では、公開授業の動画から個別の指導計画と実際の国語科授業における学びの姿のズレがないか検証したり、連携による授業づくりのプロセスを画像で報告したりした。この1年目の実践を活かし、令和5年度は2年目の実践として通級による指導と通常の学級の指導の往還にスポットを当てた。児童の実態把握を協働で行う意味やそれぞれの学びの場の指導内容をどのように決定し、実践し、評価・改善したかを研修会では動画や画像を使って発表した。その実践を受け、参加者は、自校あるいは自身の実践や現状を話題としてグループディスカッションを行った。なお、本研修は新潟県教育委員会の後援を受けて実施した。

- 1 上越市教育委員会（上越市立教育センター）、上越市立浦川原小学校との協働による、自立活動の個別の指導計画を活用した教師間の連携モデルの検討を以下の日程で実施した。なお、授業参観や授業づくりのための協議等は大学教員、大学院生あるいは上越市教育委員会指導主事、上越市内通級指導教室担当者も参加した。
  - ・5月10日（水）校内研修 対象児童の決定 実態把握の開始（保護者からの応諾）
  - ・5月26日（金）校内研修「自立活動の個別の指導計画作成の方法」講師 藤井和子教授  
浦川原小学校教員、上越市内通級指導教室担当者、大学院生を対象に、自立活動の意義、個別の指導計画作成と活用の目的について講話を行った。また、個別の指導計画作成の手続きについて安藤（2001）が提唱する個別の指導計画作成システムを中心に説明した。
  - ・6月9日（金）通常の学級における国語科授業参観 実態把握図の作成と支援方策の立案
  - ・6月16日（金）個別の指導計画に基づいた通級による指導の授業実践・授業参観
  - ・9月20日（水）個別の指導計画に基づいた通級による指導の授業実践・授業参観
  - ・9月21日（木）個別の指導計画に基づいた国語科における授業実践・授業参観
  - ・9月25日（月）校内研究推進部による指導案検討
  - ・9月27日（水）個別の指導計画に基づいた通級による指導の授業実践・授業参観
  - ・9月29日（金）公開授業 協議会
  - ・2月13日（火）関係者打ち合わせ 研修振り返り 次年度の課題
- 2 浦川原小学校での研修で得た情報を参考に、自らの勤務校において授業づくりを試行した例
  - ・8月下旬～11月中旬 上越市立高田西小学校
- 3 ・11月30日（木）上越市立教育センター研修  
上越市立教育センター研修に位置付け、上越地域公立学校教員を対象に研修会を実施した。  
講師：浦川原小学校 松木広子教諭 上越教育大学 藤井和子教授  
通級による指導と各教科等の授業を関連づける教員間連携の意義について藤井教授が講話した。松木教諭が公開授業の動画（編集有）を視聴しながら、自立活動の指導と対象児の学びの姿を関連付けて分析した。参加者がグループで実践の成果と課題について話し合い、発表した。

## 成果：

- 動画による授業づくりプロセスの研修会への評価（回答数20 肯定的回答95%）
  - ・大変有意義だった（7）・有意義だった（12）・どちらともいえない（1）・あまり有意義でない（0）
  - ・有意義でない（0）
- 自由記述による評価
  - ・先生のパワフルさが伝わる素晴らしい実践発表でした。小学校と、中学校とでは通級指導教室の運営の難しさに違いがあることが分かりました。特別支援教育に携わる先生方の熱意を、通常の学級の担任に伝えることの難しさについても考えました。
  - ・学級と通級の指導の連携は不可欠です。多忙な現場ではあるものの、可能な限り連携し、学校全体で、全職員で、一体となって子どもの指導・支援にあたっていきたい、という思いを強くしました。

## アイデアや工夫したこと：

- ①特別支援学校においてその効果が確認されている安藤（2001）北川・安藤（2019）の知見を踏まえた。
- ②抽出児童の実態把握、中心的課題の抽出、個別の指導計画作成から授業検討、教材検討といった授業づくりのプロセスを静止画と動画で編集し提供した。
- ③校内研究推進部と連携して実施したことにより、全校職員が、通級による指導における自立活動の個別の指導計画を活用した教科の授業づくりについて学ぶ機会となった。

## <写真・図など>

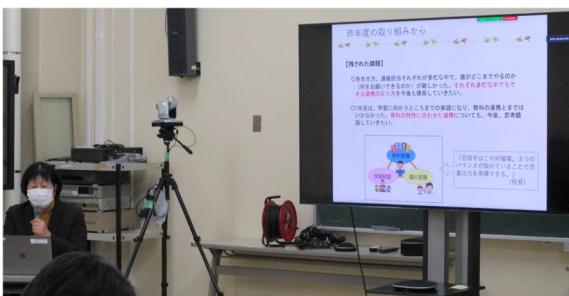
### ①協働による自立活動の個別の指導計画作成場面

安藤（2001）、北川・安藤（2019）を参考に、浦川原小学校において実態把握図及び個別の指導計画を作成した。担任、通級担当、学校長、大学教員が参画することで、本児の個別の指導計画の内容が共有された。



②通級指導教室担当教員による研修の場の設定  
授業を参観した上越市内の通級担当教員が対象児童の実態把握図と個別の指導計画（安藤，2001）を作成する演習を行った。

③通級による指導との連携による教科等の授業づくり成果発表会（VTRによる授業参観・協議会）  
上越市立教育センター研修に位置付け、成果発表を行った。浦川原小学校で取り組んだ、通級による指導と教科等の授業との関連を保つ授業づくりのプロセスを共有した。



## 文献

- 安藤隆男（2001）自立活動における個別の指導計画の理念と実践 川島書店  
北川貴章・安藤隆男（2019）「自立活動の指導」のデザインと展開 ジアース教育新